

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392500084		
法人名	株式会社ユニマツそよ風		
事業所名	春日井グループホームそよ風 1階		
所在地	愛知県春日井市東野町西1-12-4		
自己評価作成日	平成23年11月11日	評価結果市町村受理日	平成24年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に生き共に助け合う」共生共助の理念を職員で共有し、地域の方々、行政を始めとした関係各所との繋がりを密にし、御家族の協力を得、入居者様一人ひとりの個性にあわせた支援を行い笑顔のあふれるグループホームを目指している。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	(上記事業所基本情報のホームページアドレスを記載します)
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	愛知県名古屋市中種区小松町5丁目2番5		
訪問調査日	平成23年11月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

フロア毎の調理、会議など各フロアでの個性性を保ち、一方全体会議での運営協議をして、統一のとれた運営もしている。笑顔の多い、入退きの無い体調管理、家族との連携を保てる施設を目指し実現しつつある。趣味を続けられる支援(絵画教室など)をしている。職員間の連携の良さや、過去に勤務した職員の復帰があるなど、施設長を中心に良い関係がある。地域、春日井市、に溶け込み、幅広いボランティア、学校(中学、専門学校)との連携がある。施設行事での地域との交流、協力体制がある。入居者へは家族、知人との連携のなか、自由で、自立した生活の支援を心がける姿勢がみられる。複数施設、事業運営の利点を生かし、社内研修の計画性、充実が図られている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に生き、共に助け合い(共生共助)の理念を管理者・職員が共有し介護を通じて地域社会に貢献できるよう、実践に向けて努力している。	新入研修1カ月の中で理念を習得。フロアーに理念の掲示。基本の理念に基づき、各フロアーでの独自理念を作っている。申し送り時、唱和して徹底している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	季節の行事ごとに、地区のボランティアの方による交流会を行っている。1年に1度ある施設の祭りでは、地域の方の参加もあり交流を深めている	地域のクリーン作戦に参加し、清掃活動。近隣の住宅との、災害時連携体制を作っている。夏、秋祭りの参加。神輿の訪問。散歩などの時に、近隣住民と会話などの触れ合いを深め、果物など差し入れもある。春日井市のボランティアの訪問、施設の祭り時での住民参加、自衛隊の設営協力等、交流を深めている。中学校の職業体験、専門学校での体験の受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際に勉強会を設けたり、会議の際には意見交換などを行い、当施設の支援方法などについて伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、会議を行い、ご家族や市の職員、地域の方の参加があり、意見を頂き、その意見をフロアー職員に伝えていくことでサービスの向上に繋がるよう努めている	意見提案を取り入れ、トイレ内のごみ箱のごみを頻繁にとるなどし、臭いを取るなどしている。掃除を頻繁に行うなど、改善している。自主アンケートを行い、広く意見、提案を、収集している。状況、行事報告、家族などからの質問意見を細かく聞き取っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険上の手続き等の相談や、現施設の情報提供・運営推進会議の意見交換などを行い、協力関係を築いている。介護相談員の受け入れを行う事で、入居者等の相談に応じる等の活動を行っている。	入居者の状況により、担当窓口と随時の相談。介護保険課、地域包括支援センターなどと顔なじみの関係を作っている。入居者の行政的な手続き、成年後見など、個別の相談も連絡し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会は行っており、職員全体で強い意志のもと、玄関施錠やベルトによる拘束を含む、すべての拘束について行っていない	年1回研修を行い、実例研修、言葉に対する研修などして、「拘束」そのものの理解。実際のケアでの注意する事を、理解、実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、当施設では報告として上がっていないが、今後もそのような事が起こらないよう、職員・家族で入居者様の様子を見守って生きたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当施設では制度を必要とする入居者さまはみえないが、研修・勉強会を行い学ぶ事も必要と思います		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約の説明の際には、ご家族や入居者様の不安や疑問に誠意を持って、分かりやすく説明することで、理解と納得が得られるように努めています（複数の職員が同席し説明する）		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの説明時や運営推進会議の際に意見交換等を行いそれを反映できるよう努めている	意見箱の設置、そよ風通信では、職員からのコメントを、入居者別に個々に記入し家族に情報が分かるよう連絡している。推進会議への出席推進（10家族ぐらいの出席がある。）3か月ごとのケアプラン作成時に要望など取り入れている。必要に応じ電話連絡など施設側から行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議の際に、代表者から運営についての説明があり、各フロア会議では職員の意見を聞く機会を持っている	日を変えて月1回のフロア会議、全体会議時で、意見、提案を出している。必要によって支社会議へ、提案している。随時、職員意見は、施設長、リーダーへ申し入れ、全体で話し合い、改善している。結果は申し送り時や書面化して、周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の働きたいという気持ちと条件に沿うように努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議時に定期的な勉強会や、会社内外の研修の機会参加できるように勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事等の際に他施設のボランティアにいくなど交流を行っている。訪問時に意見交換等も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各居室担当を中心に、家族・入居者様の思いを聞きながら、安心して穏やかな生活に結び付けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時など、ご家族の希望・思いを聞き、サービスに反映させるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、他サービスについての情報提供を提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側でなく、入居者様を目上の方として、接している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面談時には、近況報告し本人の思い希望を伝えていきます		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や公園など利用することで、交流が途切れないように努めている	本人、家族から入所時に聞き取りをしている。面会記録、家族などから馴染みの人の把握などしている。携帯電話の使用や、電話をしたいときの支援。趣味の稽古、行きたい場所など、家族との協力で支援し、同行などしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出やレクリエーションなどを利用し、入居者同士の交流をはかっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他サービスの情報提供を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の想いに添ったサービスを、その方の生活歴などを参考にしながら勧めている	月1回以上フロアー職員会議での情報共有や、状況確認をして、思いや、希望、を全体で検討し、取り入れている。入居者への担当制をとっている。家族等の面会時での情報や日常の体調、行動、表情等から、思い、意向の把握をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員同士が、その方の情報を共有しサービスに生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察することで、その方に合ったサービスの提供に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて、本人の思いを職員間で共有し、計画書に家族の思い・本人の思いを反映させ計画書を立てている	担当制を取り入れ、情報の一元化、職員間の情報共有を図っている。3か月に1度見直し時に。家族へ、連絡議事録など見せて、職員、家族の情報共有のもと、介護計画を立てている。フロアー会議、担当者、フロアー長、管理者で計画策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添った記録をし、その情報を職員内で共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に添って、地域活動に参加できるように、家族との連携をはかり進めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の生活が豊かになるように、地域のボランティアなど利用しながら支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関との連携を図りながら、家族との連絡・情報提供を密にしている	協力医の月2回診察、かかりつけ医の往診、訪問もある。訪問看護週1回、家族との連携での受診、職員同行時は同席し、内容を、家族に電話連絡している。医師間は、FAXなどで、連携している。歯科衛生士も月4回来所。全体に密な連携をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護との連携をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医または病院関係者との情報提供を密に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに関し、当施設では行っていないが、前向きに検討中である	入居時に施設の方針説明をしている。医師、家族などと連携し、移送、移転の支援をしている。緊急時には、看護師が医師との連携に中、対応しながら、家族との連携で支援する。ターミナルケアについては、現在検討中。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会や、目の届く位置に資料などをおき、緊急時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもとに避難訓練の実施を計画し、年2回は実施をし、又その方法についても職員全体で周知している	年2回の訓練、近隣との緊急時連携体制を作り、昼、夜の想定訓練がある。災害時備蓄として、3日分を各フロアーに置いている。カセットボンベ、水、食糧など用意がある。避難マップの張り出し、経路確認がされ、緊急連絡体制がある。	近隣住民、消防署、のみでなく、消防団など、地域団体との連携体制づくりが、期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、対応についても尊敬ある目上の方であることを念頭にケアにあたり、共同生活においても、一人一人のプライバシーは守られている	年間研修項目があり、常勤、パートによらず、履修者をきめ、研修させている。言葉遣い、入浴時の見守りへの配慮がされ、社内研修(マナー、接遇、認知症研修など)や全体会議などで、話し合わせ、報告書等、内容を回覧している。自然な声掛けに気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者主体で一日の流れを決めており、業務優先とならないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の思いや習慣を優先し、その日の流れや外出計画を進めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は職員が準備した物でなく、自分で選ぶ事が出来るように勧め、その方の好みや気分に合わせた身だしなみが出来るように勧めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の残存能力を生かし、買出し・食事の支度・片付けなど、食事に関する一連の動作を職員と一緒に行うことで、食への楽しみにつなげている	各フロアごとで調理し、食材を毎日買い出している。メニューも基本はあるが、適時変更ができる。配ぜん、盛り付け、食器拭き等入居者が参加しながら行われている。好みの飲み物(コーヒー、牛乳など)が楽しめる。月2~3回喫茶店、外食など、出かけている。ポン酢、減塩塩などで、好みの味付けができる。おやつ等、自室でも、楽しめる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせて、形態・量などを考慮し提供しているが、その為に栄養のバランスや水分の確保が崩れないように常に見直し、検討している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを進め、就寝時には義歯洗浄剤を使用するなどし、又、訪問歯科との連携を図り口腔内の清潔維持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターンを掴み、必要時には声掛け・誘導を行うことで、失敗を減らし排泄の自立に向けてケアを進めている	日々の記録をして、パターン、状況把握をしている。見守りをしっかり行う事を基本として、支援している。トイレ利用後の臭いなどからも判断している。昼間、夜間(3時間ごと巡回)とも、見守り、声掛け、誘導など、こまめに行い、自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、食事・水分などを見直し、又、適度な運動などを取り入れて腸運動を促し便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に合わせてながら入浴を勧めている。	時期により、ゆず湯、菖蒲湯等で、楽しめるようにしている。週3回目安だが、チェック表で管理し、順番を決めず、自由に入浴でき、毎日入る事もできる。脱衣室にヒーター、浴暖設備あり。個人で入浴でき、脱衣室も他の入居者を入れずゆっくりできる。。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人一人の体調や習慣に合わせて休息(居室・リビング)する事が出来、夜間の就寝時間は決まらず、その方の習慣に合わせている。不安や不眠時には寄り添い、安心して休んで頂けるように勧めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに薬剤情報を載せていき、用法・副作用についても常に確認・把握できるように勧めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や、現在の想いを把握し、役割や生きがいを持って頂ける支援を日々の生活の中や、活動計画を利用し勧めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、家族との外出の機会を持って頂けるように、面談時などに本人の希望を伝え、又、お願いし実際に外出の協力をして頂いている	月2回でいど喫茶、食事への外出支援。家族との協力での随時の外出。買い物、ゴミ捨て時での外出。週2~3回入居者同士で、職員同行しながらの公園、緑道への散歩など、行っている。人数を分け、危険のない範囲での同行(入居者2~3人に職員1人)をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはトラブルを防ぐ為に、家族からお小遣いとして施設でお預かりしているが、本人の買い物の際には、お返し店頭で自ら支払うなど「使う」といった支援は進めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月の施設便りに、家族に当てて本人からメッセージを書いていただくようにすすめている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不自然な飾りつけは避け、観葉植物や季節を感じられるものを置き、生活の場ということを念頭に環境を整えている。また毎日の清掃にて、臭いや汚染などで共用の場が不快とならないように心がけている	ソファを利用してくつろげるようにしている。西日対策に緑のカーテン(ゴーヤ)などしている。毎日の清掃をして、清潔にしている。音楽をかけたり、レースの、カーテンの利用などして、強い日差しを避けている。車いすの動線を確保している。ラジオ体操など全員でスペースを使い楽しめるようにしている。花や趣味の作品(きり絵、書道、絵画、カレンダー絵手紙)を張り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓スペースとは別に、小スペースだが、入居者同士がくつろげる空間はあるが、一人でとなると居室内でとなる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのある家具や家族の写真などを置き、気持ちよく生活して頂けるようにくふうしている	職員、入居者と毎日、清掃し、朝に窓をあけ空気の入れ替えをしている。筆筒、鏡台、など、馴染みの家具を配置している。入口に其々の好みの、のれんや、張り絵、絵画など貼り、自室であることを解り易く、なじめるようにしている。、季節の変わり目には、家族、担当が協力し、クリーニング、片付けなどしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた空間の中で、一人一人の環境に合わせることは難しいが、家具の配置などの工夫で使いやすさ、安全の配慮をしている		

(別紙4(2))

春日井グループホームそよ風

作成日：平成24年1月8日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		入居者様に対する言葉使い(声掛け)	各入居者様に応じた声掛けが出来る 人生の先輩であることを意識した言葉使いができる	施設内勉強会 接遇マナー(外部研修)参加	12ヶ月
2		季節によって外出が困難な日がある、その様な日の入居者様の過ごしかたが単調になってしまう	室内で出来るレクの検討	生け花・料理・ちぎり絵・塗り絵等、レクの種類の充実を図る	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月